

2021 年度 卒業生答辞 大久保 渉

桜の蕾も膨らみ始め、風の温かさに春を感じる季節となりました。

私たち卒業生一同は、今日この日をもちまして、神奈川大学を卒業します。

この学生生活最後となる良き日に、私たちのためにこのような素晴らしい式を挙行してください、心より感謝申し上げます。

また、この厳しい状況が続く中でも、先生方をはじめ、ご来賓、ご父母の皆様にご列席いただく中で卒業できることを、卒業生一同を代表し、厚く御礼申し上げます。

思い起こせば4年前、これから始まる大学生活に期待と不安を抱き、神奈川大学に入学しました。

高校時代とは違い、多くの履修科目の中から自ら学びたい科目を選ぶ必要がありました。時間割を作成する際には、オリエンテーションの授業で仲良くなった友人と相談したりするなど、助け合うことで、不安な学生生活が、これから友人と楽しく過ごすキャンパスライフになると確信いたしました。

1年生では、大学の講義のスタイルに慣れることに一生懸命でした。

100分という長い講義時間、広い教室に、広い黒板と、高校時代には想像できない景色が広がっており、講堂の前の方に座り、必死にノートを取っていたことを思い出します。経済学という学問に対し、右も左も分からない私は、友人に相談したり、教授に質問したりと、非常に忙しかった1年であった気がします。

2年生では、ゼミナールに所属したことにより、さらに大学生の勉強生活を身を感じることができました。

ゼミナールでは他のゼミ生と協力し、財政学という学問に身を投じました。ゼミナールの発表会の前日には図書館に集まり、遅くまで打ち合わせをしていたことは今となっては楽しい思い出となっています。

3年生では、神奈川大学も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、私の3年次の初回授業は自室のコンピューターの前という異例のスタートを切り、講義やゼミナール活動は多くの制約を受けることとなりました。しかし、このような中でも、友人と連絡を取り合い、協力することで、3年次の大学生活を無事に乗り越えることができました。

そして4年生は、就職活動と卒業論文に追われる忙しい年となりました。

就職活動では、自分の人生を振り返る良き機会となりました。時には不安に駆られながらも、困難を乗り越えることができたのは、悩みを聞き、相談相手となってくれた友人や家族の存在が大きかったです。卒業論文は、1年前から構想を練り、ゼミナールの仲間や教授のお力も借りながらですが、4年間にわたる学修の集大成を作り上げることができました。

これ以外にも、語りつくすことができないほどの思い出がありますが、神奈川大学での4

年間は、人との繋がりや助け合いの重要性を学ぶことができ、非常に充実した時間でありました。

4月からは社会に出る者、学びを継続する者、夢を追いかけるために行動する者など、自ら決めた道に各々が進みます。これらの道に、神奈川大学で身につけた4年間分の力や知識は必ず自分たちを助けるものとなることでしょう。この大学生活で得たものを今後の人生に活かし、神奈川大学の学生であったことを誇りに、新たな目標を掲げて将来へ邁進していきたいと思います。

本日、神奈川大学を卒業する学生一人ひとり、私と同じように、お世話になった方々に対して感謝の気持ちがあることでしょう。最後になりますが、この場をお借りして卒業生を代表し、感謝の気持ちを述べさせていただきたいと思います。

私たちを指導してくださった先生方、陰から支えてくださった職員の方々、精神的にも、経済的にも支えてくださった保護者の方々、並びにご多忙の折ご列席くださいました皆様、4年間私たちを温かく見守ってくださり、本当にありがとうございました。

以上、卒業生を代表して、お別れとお礼の言葉とさせていただきます。

2022年3月22日

卒業生代表

経済学部 経済学科 大久保 渉